

生涯学習で生きがいを高めよう 社会参加で

人生80年時代を迎えて

九月十五日は「敬老の日」。さらに十五日から二十一日までは「老人福祉週間」です。日本人の平均寿命は大幅に伸び、高齢者人口も急テンポで増え続けています。「長い老後をどう生きるか」——高齢化社会が進み、人生八十年時代を迎えて、いま真剣に考えなければならぬときに来ていると思います。



▶8月17日、中央公民館老壮大学の皆さんと桜町の子供たちがバレーボール交流をしました。(サンアビリティーズ大館で)

60歳以上が 二万三千人に

当市の六十歳以上の人口は一万三千百七十一人で、市の総人口の一八%を占め、三年前(五十八年)に比べて一六%も増加し、高齢化社会が急速に進んでいます。(人口は六十年七月一日現在福祉事務所調べ)

長い老後を どう生きるか

かつて「人生五十年」といわれていた時代に、定年退職した後的人生は比較的短いものでした。しかし、現在日本は世界一の長寿国となり、「人生八十年」といわれています。子供が結婚して独立したり、自分が退職した後、

いまでは十五年から二十年ぐらいの人生があるのです。

しかし、一般的にお年寄り、年齢とともに社会とのつながりが薄れ、社会や家庭の中の役割が少なくなりがちです。その結果、生きる目的を見失ってしまうお年寄りも少なくありません。長くなった老後の人生を健康に過ごし、いかに生きがいのあるものにしていくのか——重大な課題であるといえます。

目的意識をもつて 生きる

生き生きとしているお年寄りに共通点があるといわれます。それは、好奇心がおう盛で友だちが多く、家庭や地域の中で役割を担い、人生の基本方針をもっている、といったことです。

身近にある学習の機会を利用したり、地域社会の活動に積極的に参加したりして、「仲間」や「役割」や「人生の基本方針」をもつようになりたいものです。

生きがいを高めるための学習や社会参加には、
▽さまざまな学習をする——中央公民館の老壮大学、花岡公民館の長寿大学などの高齢者教室
▽長い人生の中で身につけた知識や技術を役立たせる——シルバ1人材センター

敬老会へ どうぞ

市では、今年も各地区ごとに敬老会を開催します。どうぞおいでください。

地区	へとき	へところ
下川沿	9月5日	下川沿公民館
二井田	5日	二井田公民館
上川沿	6日	上川沿公民館
城西	6日	農業会館
真中	8日	多目的集会所
矢立	13日	矢立公民館
長木	14日	長木公民館
釈迦内	14日	釈迦内体育館
花岡	15日	花岡体育館
十二所	21日	成章中学校
大館	25・27日	市民体育館

へじかん 釈迦内は正午、二井田城西は12時30分、その他は午前11時から始まります。

敬老見舞金を 贈ります

市では、敬老見舞金制度を今年も実施します。該当される方はお知らせください。

対象者・9月15日現在満70歳以上の方で、9月中に入院治療を受けている方。

金額・五千元。ただし、これに該当した方には、敬老祝金(75歳以上の方に支給)は支給されません。

届出先・民生委員が福祉事務所社会係(内線208)へ

市長の 対話ノート



No.138

家事労働はタダか

敬老の日を前に考えてみました。女性は八十歳という平均寿命となり、その大方の人々は今はとって「主婦業」といわれる家事労働が主であったことでしょう。

ところでGNP(国民総生産)の中には家事労働生産は含まれていないのです。なぜでしょうか、理解が出来ません。

私は思います。一つには女性軽視で労働に値しないということでしょう。NHKの国民生活時間調査によれば、実働七時間二十九分、拘束十六時間の純労働者ということになるそうです。

二つには「家庭は消費の場」であり生産が伴っていないからということでしょうか。とんでもない話です。家庭は、夫や子供はもちろん、自分の翌日の生産活動に必要なエネルギーを生産する場なのです。

確かに外部から賃金を得る生産ではないでしょうが、だからといってその労働を評価しないことを誤りであるといわなければなりません。特に「男女雇用機会均等法」が施行された今こそ考えを改めなければならぬ時ではないでしょうか。

世の男性の賃金の中に、当然のことながらそれを含めて主張すべきです。会社経理の中でも「内部待遇」として処理しているではありませんか。

伊山 俊彦